～日本小児科学会の「知っておきたいわくちん情報」～

新型コロナワクチン

B-14

どんな病気ですか？

新型コロナウイルス感染症は、2019年にコロナウイルスの仲間に新しく加わったサーズコロナウイルス2（SARS-CoV-2）による感染症です。新型コロナウイルスに感染すると、最初は普通のかぜと同じように発熱や咳、鼻水、のどの痛みなどがでます。多くは自然に良くなりますが、病気のあるお子さんや2歳未満では、重症になることがあります。

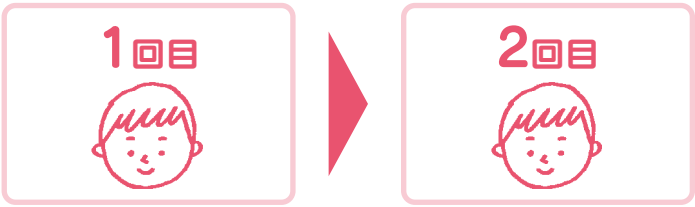
新型コロナウイルスに感染しているかどうかを調べるには、だ液（つば）や鼻の奥をぬぐった綿棒を用い、ウイルスの遺伝子の一部を調べるPCR検査やウイルスのたんぱく質を直接調べる抗原検査があります。

ワクチンをいつ、何回、どこに接種しますか？

現時点で18歳未満のお子さんに使用できるワクチンは2つあります。ファイザー社ワクチンは、5～11歳用と12歳以上用があり、共に1回目から3週間以上あけて2回目を接種します。武田／モデルナ社ワクチンは、12歳以上のお子さんに接種可能で1回目から4週間以上あけて2回目を接種します。

2022年4月現在、武田/モデルナ社ワクチンの3回目接種は18歳以上が対象のため、現時点で12歳以上18歳未満のお子さんに接種可能な3回目のワクチンはファイザー社ワクチンのみとなります。1回目・2回目にどちらのワクチンを接種していても、ファイザー社ワクチンを2回目から6か月以上あけて接種できます。両ワクチンとも上腕の筋肉内に接種します。

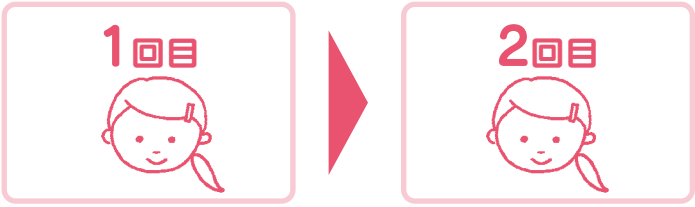
武田／モデルナ社ワクチン



1回目から4週間以上あけて

12歳以上用

ファイザー社ワクチン



1回目から3週間以上あけて

5～11歳用　または　12歳以上用

ワクチンの効果

ファイザー社ワクチンは、これまで行われた5～11歳と12歳以上のお子さんにおける研究で高い有効性を認めています。5～11歳のお子さんにこのワクチンを接種することで、オミクロン株感染による入院リスクを約2/3に減少させたという報告もあります。また、武田／モデルナ社ワクチンも12歳以上のお子さんに行われた研究で高い有効性を認めています。両ワクチンとも免疫の獲得は他の年齢と比べて同じ程度です。しかし、オミクロン株に対してはワクチン効果の持続時間が短くなっているとの報告もあります。

ワクチンの副反応

ワクチン接種後の数日間、接種した場所の痛み、発熱、体のだるさ、頭痛などの症状が出ることがありますが、これらは免疫を作る時に起きる体の自然な反

応です。これまでの海外からの報告では、そのほとんどは軽いもので、5〜11歳のお子さんの方が16〜25歳よりも副反応の頻度は低いと報告されています。副反応の中には、心臓の筋肉や心臓を包んでいる膜に炎症が起きる心筋炎や心膜炎が、お子さんでもまれに報告されています。この副反応を起こした患者さんの多くは、2回目接種の4日以内におきています。症状は軽く、良くなっていますが、1週間程度の入院加療が必要となることがあります。接種後1週間程度は無理をしないこと、胸の痛みや息苦しさなどを認めた場合は、すみやかに医療機関を受診しましょう。

まれですが、他のワクチンと同様、アナフィラキシー（重いアレルギー反応）が見られることもありますので、接種後しばらくの間は接種場所にとどまり、気になることがあれば接種医に相談しましょう。

また、これまでに熱性けいれんを起こしたことがあるお子さんは、接種前にかかりつけの先生に、熱が出た時にどうしたらよいかを相談しておきましょう。

どのように感染しますか？

新型コロナウイルスは、咳や会話などで飛び散った飛沫（ひまつ）やエアロゾル（飛沫より微細な粒子）に含まれるウイルスによる飛沫・エアロゾル感染や、手などについたウイルスが口や鼻や目から入り込む接触感染によって人から人に感染が広がります。飛沫感染は、1.5〜2m以上離れていれば防げますが、エアロゾルはしばらくの間空気中を漂い、より遠く（2m以上）にいる人にまで感染を広げます。感染経路を断つために、密閉・密集・密接を避け、換気を心がけ、手洗いやアルコールによる手指衛生、咳エチケットをしっかりすることが大事です。

接触感染
皮膚やおもちゃなどに付いた
病原体に触れて吸い込むことで感染

飛沫感染
咳やくしゃみで飛び散った
病原体を吸い込んで感染

◆ 咳エチケットしましょう！

ワクチンが接種できない人は誰ですか？

接種を受けることができない、いわゆる接種禁忌の人

- 明らかな発熱を認めた場合
- 重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな者
- ワクチンの成分によってアナフィラキシー（重いアレルギー反応）を起こしたことがある場合
- 上記以外で予防接種を行うことが不適当な場合

接種を受けるにあたって注意が必要な人

接種前にかかりつけ医によく相談しましょう

- 心臓・血管・腎臓・肝臓・血液に持病がある人、発育に障害がある人
- これまでの予防接種で接種後２日以内に発熱や全身性発疹等のアレルギーを疑う症状を認めた人
- 過去にけいれんの既往がある人
- 過去に免疫不全の診断がなされている人
- 先天性免疫不全症の病気をもっている近親者がいる人
- ワクチンの成分によって、アレルギー反応を起こすおそれのある人
- 血をさらさらにする薬を飲んでいる人、血小板が少ないまたは血が止まりにくい病気のある人（接種後の接種した場所の出血に注意が必要です）
- ２週間以内に他のワクチンを接種した方や、接種後２週間以内に他のワクチン接種を予定されている人は、原則接種することはできません。また、現時点では、異なるワクチンとの同時接種はできません。

発　行　日本小児科学会
2022/06作成 ver.1